
生徒「俺、先生が好きです。」

ケレンコフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生徒「俺、先生が好きです。」

【Nコード】

N5192P

【作者名】

ケレンコフ

【あらすじ】

少し歪な恋についての、ちょっとしたショートストーリーです。

生徒「俺、先生が好きです。」

教師「えっ」

生「先生は俺の事どう思いますか？」

教「い、いや、待って下さい。」

生「嫌です。待ちません。」

教「え、えつと私達歳が離れてますし……………」

生「俺が18。先生が26。8しか変わらないじゃないですか。」

教「8しかつて。そ、それに、私にはもう夫も居るんですよ」

生「知ってます。」

教「し、知ってますって、そんな簡単に……………」

生「その上で、先生が好きなんです。」

教「そんな……………大体、何故……………何故私なんですか。」

生「理由は沢山あります。三年に上がって、副担任の紹介の時に生徒の野次に慌てる先生が可愛いと思ったから。」

教「うつ」

生「自分の仕事に真剣に取り組む先生が綺麗だったから。俺達と汗だくになって学校行事に取り組む先生が眩しかったから。失敗したとき、放課後の職員室で一人落ち込んでる先生の力になりたいと思ったから。」

教「うつ」

生「進路とかで学校が忙しくなって、時々疲れた表情を見せる先生の支えになりたいと思ったから。他にも沢山理由があるのですが、お時間は大丈夫ですか？」

教「も、もういいです／＼」

生「そうですか、残念です……………」

教「ク、クラスにも、学年にも魅力的な子はいっぱい居たのに……………」

生「分かりませんか？」

教「？」

生「他の女性が目に入らないほど、先生だけを見てたんです。」

教「／＼／＼／＼」（若い、若いよ／＼／＼）

生「で、どうですか？俺の事、嫌いですか？」

教「き、嫌いじゃ……………ない、です……………けど。」

生「そうですか。ありがとうございます。」

教「け、けど！や、やっぱり……………」

生「……………先生、どうかお願いします。そんな困った顔をしないでください。俺は先生の困った顔を見たい訳では……………いや、困った顔も愛らしくて見ていたいんですが、俺自身が先生を困らせたい訳では無いんです。」

教「は、はあ……………。えと、ひょっとして、私からかわれてるだけですか？」

生「本当に、からかってると思いますか？」

教「い、いえ……………」

生「……………先生、俺は今自分勝手な事をしている自覚があります。」

教「……………」

生「子供みたいに、自分の感情を。先生の事情を無視して、自分の感情をぶつけるって我が儘をしている自覚があります。」

教「……………」

生「俺は、先生が好きです。冷静で居ることが、不実に思えるほど先生が好きです。」

教「……………」

生「先生、俺に恋をさせてくれてありがとう。伝えないと辛くて、伝えられるだけでも幸せにしてくれる感情を、ありがとう。」

教「……………そうですか。」

生「はい。」

教「……………」

生「先生、俺は先生が好きです。一方的にですが、愛しています。先生は、俺のこと、どう思いますか？」

教「私は……………私は……………」

友人「……………で、どうだった？」

生「ああ、しっかりフられた。」

友「そか。」

生「ああ。そうだ。そして、満足だ。先生が、例え一瞬でも俺を一

人の男として見てくれた。俺という一人の男に、一人の女として答えてくれた。それだけで満足できる。それだけで、こんなに幸せになれる。」

友「そっか。」

生「なあ？」

友「ん？何だ？」

生「恋愛って……恋をするって、こんなに幸せだったんだな。」

友「そうだな。」

生「こんなに、こんなに暖かい涙は初めてだ。こんなに、明日の糧になると思える涙は、初めて流した。」

友「……そっか。お前は、本当に幸せなんだな。」

生「ああ、俺は今、世界一幸せだよ。」

おわり

（後書き）

批評感想、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5192p/>

生徒「俺、先生が好きです。」

2010年12月16日00時32分発行